

白光園の給食 厚生労働大臣賞受賞



21年の軌跡

平成13年10月29日、大阪国際会議場を会場に、全国栄養改善大会が催されました。そこで受賞式があり、優良集団給食施設部門で厚生労働大臣賞に当園が表彰を受けてきました。県では一施設、全国でも特養は二施設ととても名誉ある賞です。21年間の給食に関する実績が認められたものだと思います。

昭和55年に開設され、当時は50床からのスタートで、58年に30床増床。平成2年にはふれあい給食を実施(その後2年間)。同年の7月には厨房を改築し、より機能的になりました。平成5年にはデイサービスが始まり昼食を提供。平成11年10月より40床が増床となり、現在の厨房に移動し、整った環境のもと、一日130人分から150人分の食事を提供してあります。

こうした21年の歩みの中で、変化に応じ模索し改善してきました。これも、県関係者の方々の多大なるご指導をいただいたお陰であり、深く感謝いたしております。これまで給食にたずさわった職員も数多くおり、その努力の積み重ねが賞につながったと感じております。これからも賞にはじないようスタッフ一同頑張っていきたいと思います。

(樋口給食係長)



町長より長寿のお祝い

今年1月4日に町長が来園され、数えて百歳を迎えられた安部喜七さんに長寿のお祝いが贈られました。「ご家族の見守る中、笑顔で祝い金を受けられました。これからもお元気で長生きしていただきたいです。」



真の長寿社会を目指して

白鷹福祉会副理事長 新野 晃敏

平成12年4月に介護保険制度がスタートしてから早いもので、1年10ヶ月が経過致しました。この制度が導入された背景には、欧米にも例を見ない急速な少子高齢社会の到来と核家族化により、家族の力だけで高齢者を介護する事が困難になってきた事があげられます。その結果、高齢者の介護を社会全体で支え、従来の様な画一的なサービスではなく、利用者のニーズに配慮したきまやかなサービスが安心して受けられる仕組みとして、介護保険制度がスタートした訳ですが、色々な問題も出て参りました。

なかんずく深刻なのは、介護保険制度が始まってから施設への申し込みが増え待機者が急増した事です。原因としては、介護保険制度が浸透してから施設入所に対する偏見が少なくなつた事や、既に述べた様に核家族化により各家庭の介護力が大幅に低下している事

などがあげられますが、介護保険料をきちんと払い施設サービスを希望されながら入所出来ない大勢の待機者を、ただ手をこまねいて見ている訳には行きません。

いま白鷹町の65歳以上の高齢者は27%を超え、中でも身体諸機能の低下した要介護度の高い75歳以上の後期高齢者は年々増加傾向にあり、施設介護のニーズが今後さらに高まる事が予測されます。そのため平成12年4月に策定された白鷹町の第二次老人保健福祉計画を早急に見直し、第二の特別養護老人ホームを建設する必要性が出て参りました。従来型の施設も必要であると思いますがその一方で、ノーマライゼーションが叫ばれている折りから例え施設介護と言えども、今まで以上に人権やプライバシーに配慮した新しいタイプの施設が求められる様になりました。現在日本人の平均寿命は男女共に世界一で、

今や確実に「人生80年の時代」となりましたが、長生きする事が高齢者にとっても家族にとっても、果たして本当に喜ばれる社会になっていると言えるのでしょうか。以上の様な考え方から、白鷹福祉会は真の長寿社会を目指し、第二特養の建設を含め利用者ご家族のご期待に答えるべく全力を傾注して参りますので、皆様には今後とも宜しくご指導とご協力を賜ります様心よりお願い申し上げます。

